

佐賀城下東構口 【構口公園整備事業に伴う発掘調査】

現地説明会資料

□はじめに

今回の発掘調査は、この土地を市民の方から寄贈いただき、佐賀市が公園として整備するにあたって、事前に行っているものです。

整備対象地付近は、佐賀城下を東西に延びる長崎街道の東側入口にあたります。江戸時代に描かれた絵図や文献などの資料から、江戸時代にこの場所に橋が架かっていたことは想定されていましたが、それを示す具体的な遺構は確認されておらず、位置の特定まではできていませんでした。しかし、今回の発掘調査によって、橋の土台に築かれた石垣が発見されたことによって、橋の位置が明らかになるとともに、絵図に描かれている番所の位置も特定でき、この場所が佐賀城下への東入口であったことが明確になりました。

□調査の成果

橋の土台は、平面が台形状で、川側に張り出す形で造られており、石垣は北（約6m）、東（約7m）、南（約5m）の3面に築かれています。北と南では7～8段分（高さ2m程）の石積みを確認しました。根石（一番下の石）までは確認できていますが、最下段の石は、上段の石より一回り大きく、根石に近い部分と考えられます。

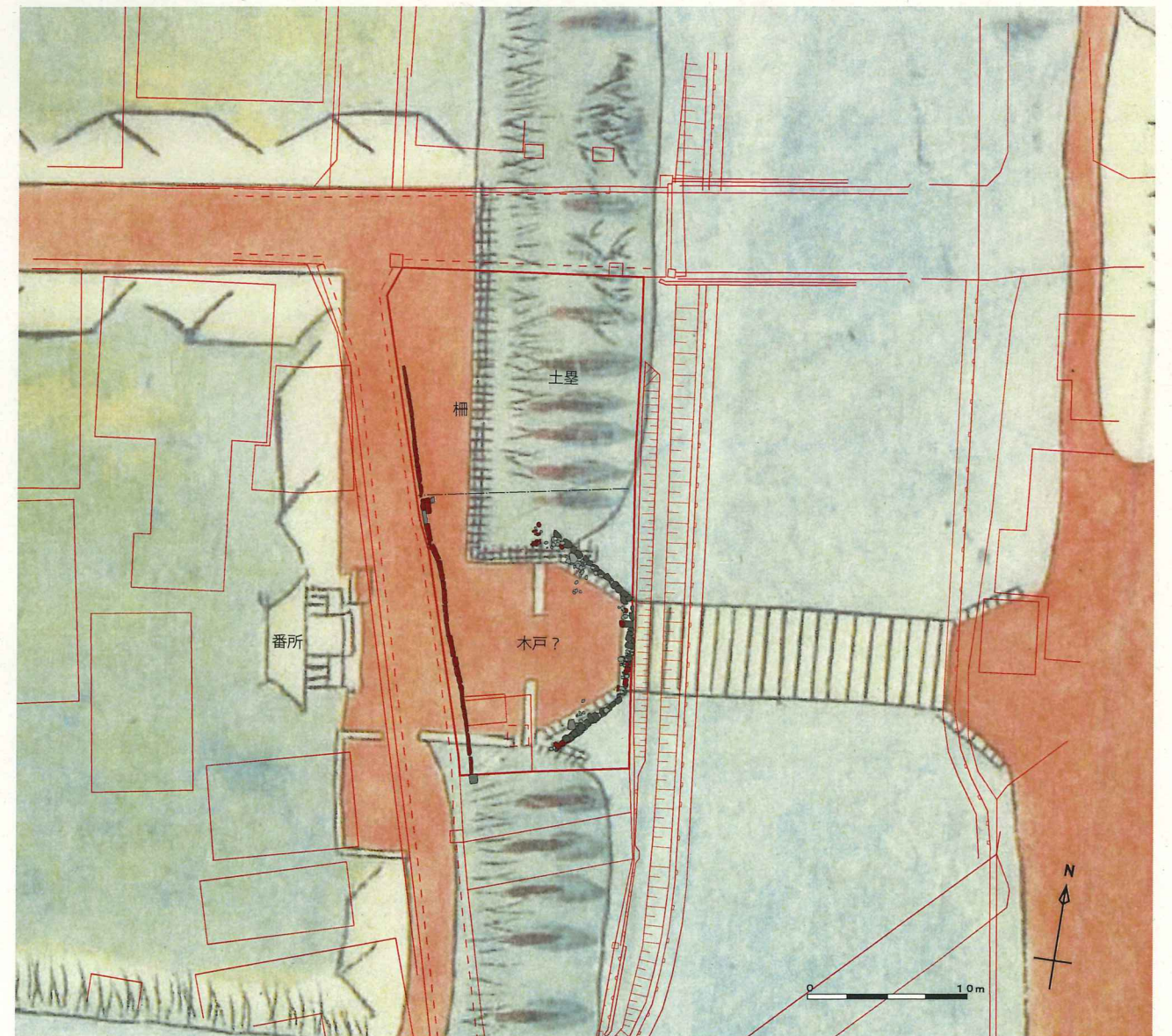
積まれている石材は、灰色の石のほか、佐賀城の堀で使われている赤石も見られます。橋は、江戸時代の初め頃から架かっていたと考えられますが、この石垣の構築年代は、1800年前後と考えられます。ただ、残っている矢穴（石を切り出す時にあけられた穴）から、時代が古いと考えられる石も存在していることから、橋の土台として機能していた長い年月の間で、石垣の修復が繰り返し行われ、使える石材は再利用されていた事がうかがわれます。

石垣は全体的に丁寧なつくりで、石垣が倒れにくするための「輪取り」や、隅角に「シノギ角」の技法が用いられていることから、城など石垣構築の伝統を継承した技術集団が携わっていたと考えられる仕上がりになっています。また、石の表面を揃えていることから、見せることを意識したつくりとなっていることも特徴としてあげられます。

今回の調査では、石垣のほかに、地面を強化した整地面を確認しました。これは、橋から続く「道」の痕跡と考えられる部分で、砂と粘土をつき固めることで非常に硬く締まった状態になっています。この整地面の範囲を確認することで、当時の道幅を明らかにできると考えられます。

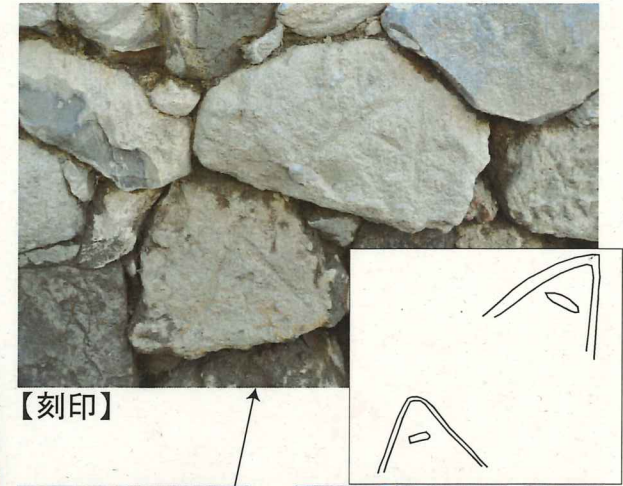
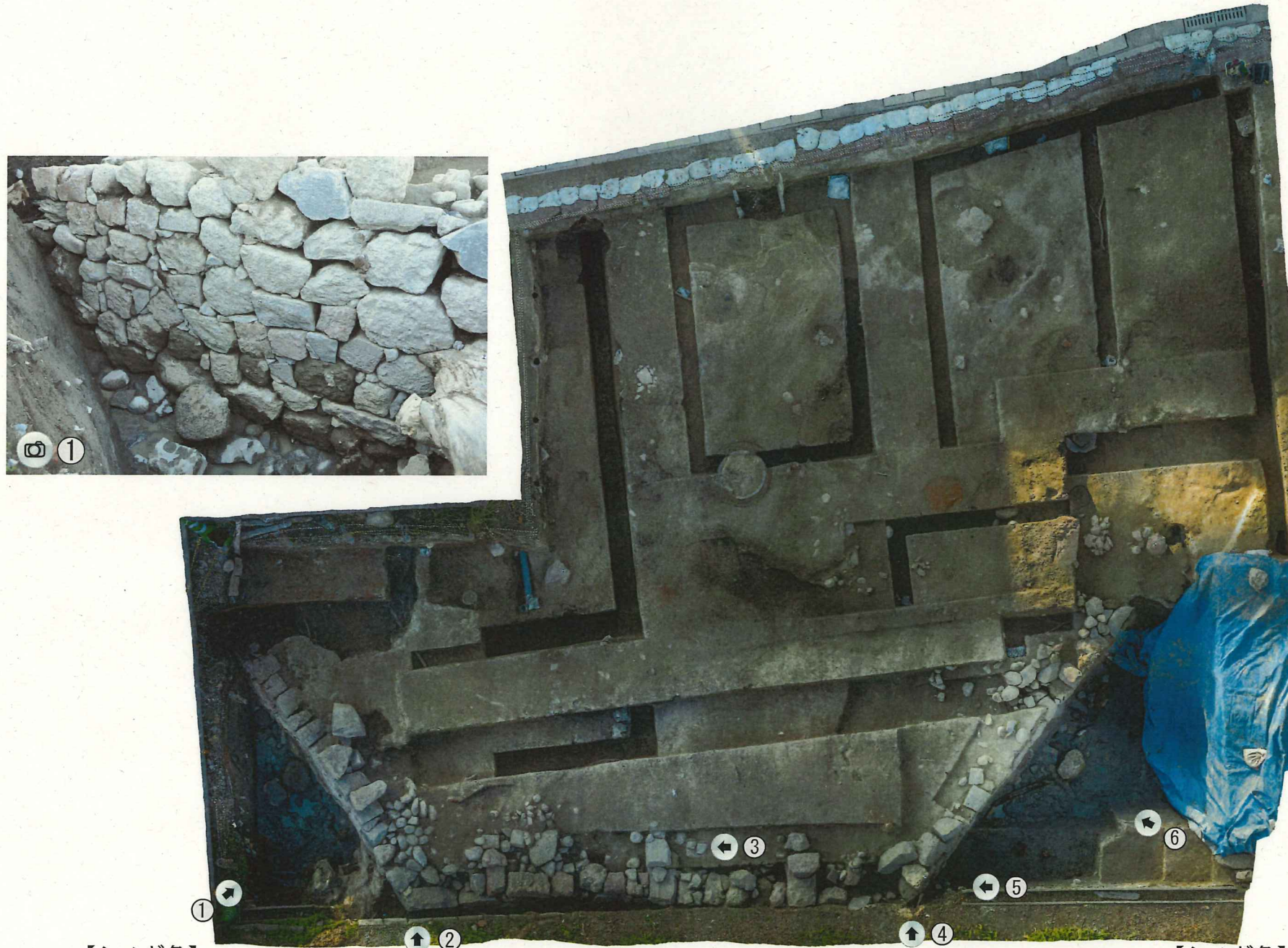
□遺構発見の意義

橋の遺構として、構造が解る類例の少ない発見となりました。また、この地域で長崎街道関連の遺構が明確なかたちで初めて発見され、これまで解明されていなかった城下の要衝となる東入口の位置が特定されたと同時に、高度な技術を用い、さらに見せることを意識した造りの石垣であったことが判明し、この場所が、佐賀城下の玄関口としての意識が強うかがわれる発見となりました。



◎絵図と石垣検出状況略図の合成図

巨勢郷牛嶋村絵図 天明5年(1785)【公益財団法人鍋島報効会所蔵】



【シノギ角】

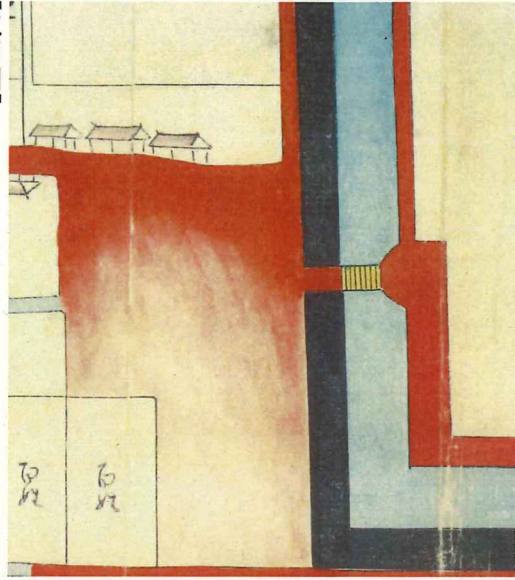


【シノギ角】



牛嶋口(構口)の変遷

【江戸期】



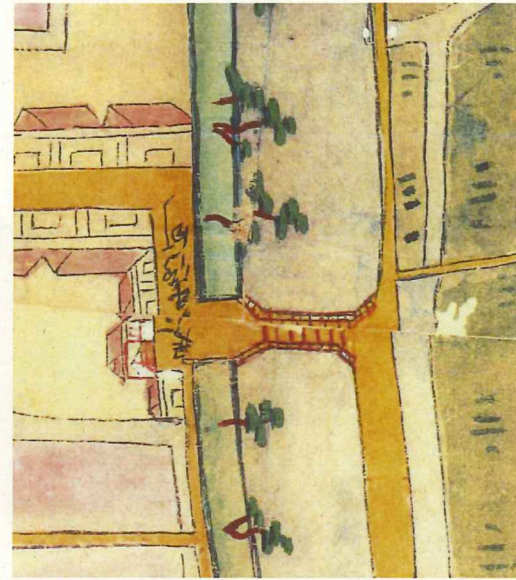
慶長御積絵図(部分) 慶長15年(1610)頃 江戸後期写
 【公益財団法人鍋島報効会所蔵】
 古くからこの地点(牛嶋口)は、城下入口の要衝として整備の手が加えられていた様である。

44年後



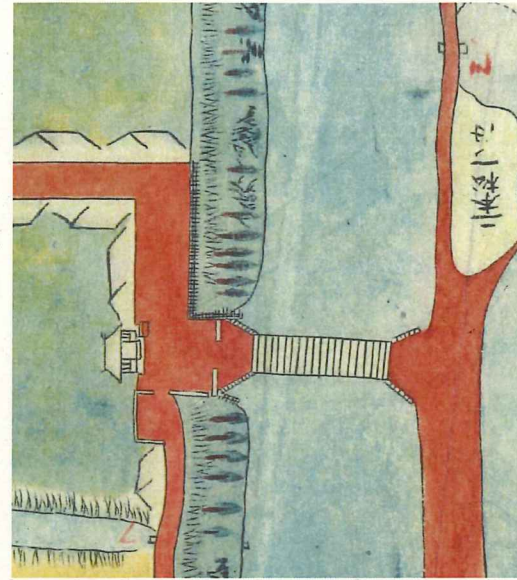
承応佐賀城廻之絵図(部分) 承応3年(1654)
 【公益財団法人鍋島報効会所蔵】
 橋の西側に番所が描かれ、橋はアーチ型で表現されている。

86年後



元文佐賀城廻之絵図(部分) 元文5年(1740)
 【公益財団法人鍋島報効会所蔵】
 橋の西側に番所が描かれている。橋には欄干?の様な表現が見られる。

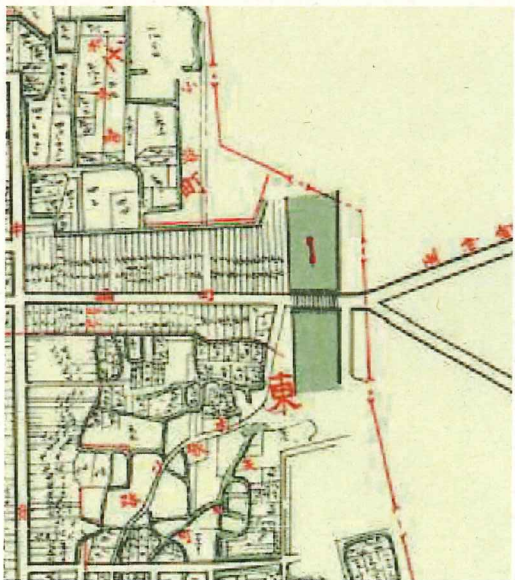
45年後



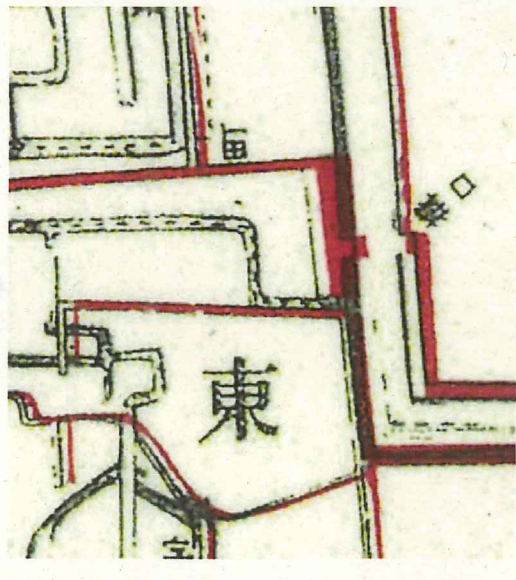
巨勢郷牛嶋村絵図(部分) 天明5年(1785)
 【公益財団法人鍋島報効会所蔵】
 番所と木戸?のほか、橋土台の石垣が表現されている。この絵図が描かれて間もなく、牛嶋町で火災が起こり、番所も焼失する。

安政4年(1775) 天明7年(1787)
 橋の架け替えが行われる。

25年後



大正期の佐賀市街明細地図(部分)
 【佐賀市史第四巻(近代編 大正・昭和前期) 佐賀市 昭和54年】
 この頃には現在の構口橋の位置に橋が架かり、構口交差点まで直線で繋がっている。その南に橋は表現されていない。



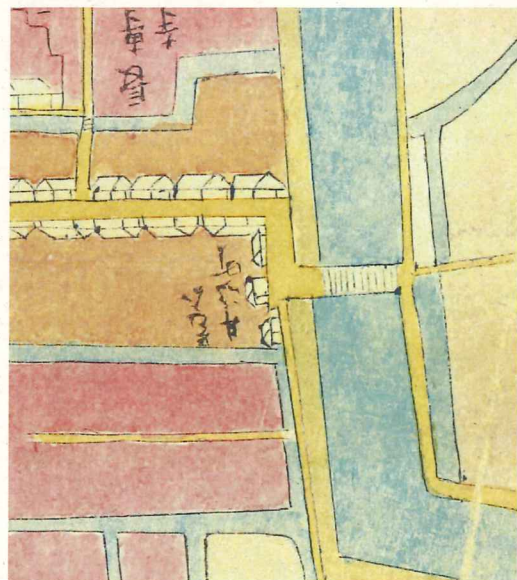
明治期の佐賀市街明細地図(部分) 明治32年(1899)発行
 【佐賀市史第三巻(近代編 明治期) 佐賀市 昭和53年】
 川に張り出した橋土台が表現されている。



市制施行当時之佐賀市街図(部分) 明治22年(1889)頃
 【復刻 佐賀市史上巻 佐賀市 昭和48年】
 現在の構口橋の位置に橋は描かれておらず、旧来の街道が主要道路(国道)として機能していた様である。

【明治以降】

79年後



文化御城下絵図(部分) 文化年間(1810)頃
 【公益財団法人鍋島報効会所蔵】
 再建された番所が描かれている。橋北側の川幅が狭く表現されている。

佐賀新聞 明治23年(1890)8月13日記事
 『佐賀市の牛島橋が落成。佐賀市牛島町から佐賀郡牛島村に通ずる国道に架設』
 【佐賀新聞に見る佐賀近代史年表 明治編上 佐賀近代史研究会 昭和63年】